

2022 年度
東京都立大学大学院 都市環境科学研究科
都市政策科学域 選抜試験（冬季）
博士前期課程（一般・社会人）（4月入学）

科目 <小論文>

時間 10:00～12:00

注意事項：

- ①解答は、配布された答案用紙に行うこと。不足した場合は、手を挙げて申し出て下さい。
- ②答案用紙の「学修番号」欄に「受験番号」を、「氏名」欄に「氏名」を記入してください。
- ③監督者の指示があるまで問題冊子は開かないでください（その他、監督者の指示に従うこと）。

受験番号	一般・社会人	氏名
------	--------	----

以下の文章は、東京都が 1963 年 2 月に策定した『東京都長期計画』の一部である。以下の文章を読み、次の(1)及び(2)に答えなさい。

戦後における都の人口増加の勢いは、諸外国にも類例のないほど異常なものであり、産業の発展も著しいものがある。一般に、人口および産業規模の拡大それ自体は、地域社会の発展のために、そのにない手を増し、その基盤を形成するものとして歓迎すべきものであることはいうまでもない。しかし、都の場合、これがどのような事態をひき起こして来たであろうか。

都の人口増加における顕著な特徴は、社会増の著しいところである。しかも、この社会増のうち、もつとも大きな部分を占めるのは、工場、事務所等に就職または転職するため流入する者である。かくして、就業人口の増大が産業活動を拡大し、このことがまた地方からの流入を誘引するというように、人口流入と産業活動の拡大は相互に因となり果となつて、ますます膨張を続けて来た。

また地方から勉学のため流入して来る者も社会増のうちで相当の部分を含めており、さらに職を求め、あるいは大都市生活のはなやかさにあこがれて漫然流入する者の数も無視できないであろう。

さらにもう一つ看過できない大きな問題は、昼間人口の増大という現象である。すなわち、地価の高騰その他の事由によつて区内に適当な居住場所を見出すことのできない多くの人々は、隣接県を含めて、その周辺に定着し、毎日区内に通勤、通学している事実である。

人口および産業の首都へのこのように著しい集中は、農村における人口収容力が限界に達している現実を背景として、政治、経済、文化の中心としての東京が持つ経済的優位と都市文化の魅力という大きな人口吸引力によつて拍車をかけられて来たためである。

(中略)

しかし、これが原因となつて、今日都はいわゆる過大都市の弊害を到るところに露呈しつつある。すなわち、その弊害の顕著なものとして、①市街地の無計画の膨張、②交通条件の悪化、③上下水道等都市施設の需給のアンバランス、④居住環境の悪化、⑤住宅不足の恒久化、⑥オープン・スペースの不足等をあげることができる。

これら過大都市の弊害は、わが国における公共投資の立ち遅れの影響が都においてももつとも深刻に露呈されたものというべきである。すなわち、わが国においては、かつての長期にわたる戦力の拡充あるいは一般的経済力の貧困等の理由によつて公共投資が比較的等閑視され、公共的な諸施設が未整備の状態であつた上に、都においては、とくに戦後の人口および産業の過度集中が事態をいよいよ深刻化したものである。そして、これらの現象は、欧米の先進諸都市に比較して、都の近代都市としての体制の整備がいかに遅れているかを如実に物語るものである。

首都への集中が個人にとつても企業にとつても何等かの利益がある場合、この集中傾向を阻止することは、決して容易なことではない。そして本来、集中すること自体必ずしも忌避するには当たらない。しかし、そのためにひき起されて来た過大都市の諸弊害は、測り知れない混乱と無秩序を発生させ、産業活動および都民の日常生活のあらゆる面に不経済、非能率、不衛生などをもたらし、都民の福祉を著しくそこなう結果となつている。

したがつて、もし人口および産業の過度集中をこのまま放置し、しかも公共投資の拡充によつて近代都市としての体制の整備をはかる施策を積極的に講じなければ、都市機能は極度に低下し、都民生活は破滅に瀕するに至るであろう。

(1) 上記の『東京都長期計画』で提示された東京都の課題は、現在(2022年)の東京都ではどのような状況にあるか。同計画に記載された課題の現在の状況と東京都が課題の解決に向けて取り組んだ政策と成果について、具体的に説明しなさい。なお、回答では『東京都長期計画』に掲載された全ての課題を論じなくてもよい。

(2) 上記の『東京都長期計画』の通り、計画には現状認識とともに予測が記載されるものである。自らの専門に引きつけながら、「計画と予測」について論じなさい。なお、回答では『東京都長期計画』は関連づけて論じなくてよい。